

生活者にとっての偶然と運

——師田史子『日々賭けをする人々』を読む——

古田 徹也（東京大学）

古来、少なくとも西洋哲学の文脈において「偶然」と「運」という概念はしばしば同一視され、さらに、統御ないし排除されるべきものとして否定的に扱われる傾向が強かった。本発表はむしろ、この両概念の差異を探りつつ、これらが人間の実際の生活においていかなる積極的な意味と意義をもつのかを検討するものである。その際、本発表では、文化人類学者の師田史子による近年の研究『日々賭けをする人々：フィリピン闘鶏と数字くじの意味世界』（慶應義塾大学出版会、2025 年）を主題的に取り上げる。というのも、彼女はそこで、賭けの結果という「現実」を人々が日々の生活のなかでどのように経験し、その経験のなかで「偶然」や「運」がそれぞれどう生起し機能するのかを、克明に描き取っているからだ。彼女の研究を跡づけることで、偶然と運をめぐる哲学上の議論において失われている重要なポイントを浮かび上がらせることができるだろう。